

# 令和5年度 全国学力・学習状況調査結果

草津市教育委員会  
令和5年8月10日

## 調査概要と結果

- 調査の目的**
  - ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
  - ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
  - ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- 調査実施日** 令和5年4月18日（火）
- 調査対象**  
小学校調査 市内公立小学校6年生 1,351人  
中学校調査 市内公立中学校3年生 1,099人
- 調査内容**
  - ①教科に関する調査**（小学生：国語、算数 中学生：国語、数学、英語）
    - ・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
    - ・知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
  - ②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査**
    - ・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査  
(例)学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、基本的な生活習慣等、家庭学習の状況 など
- 調査の方法**

### ◎小学校

1時間目	2時間目	
国語(45分)	算数(45分)	児童質問紙 (20～40分程度)

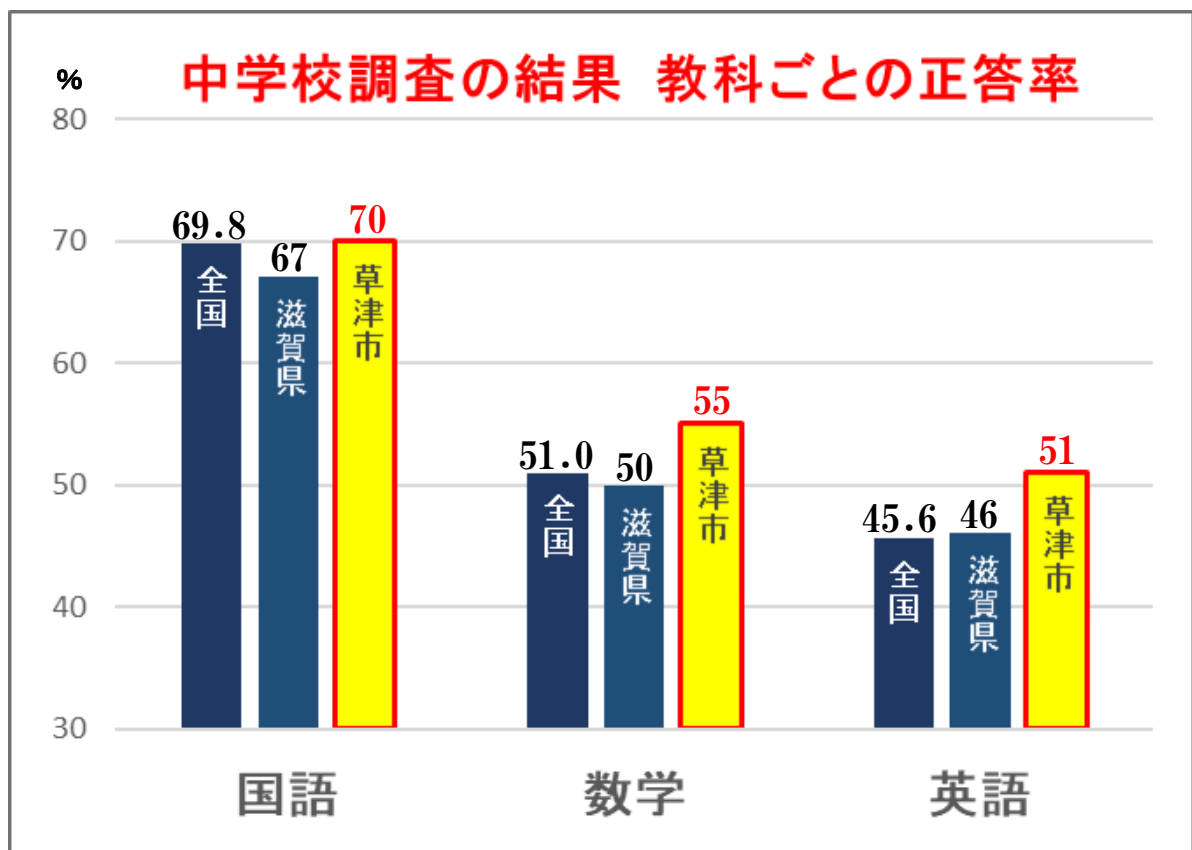
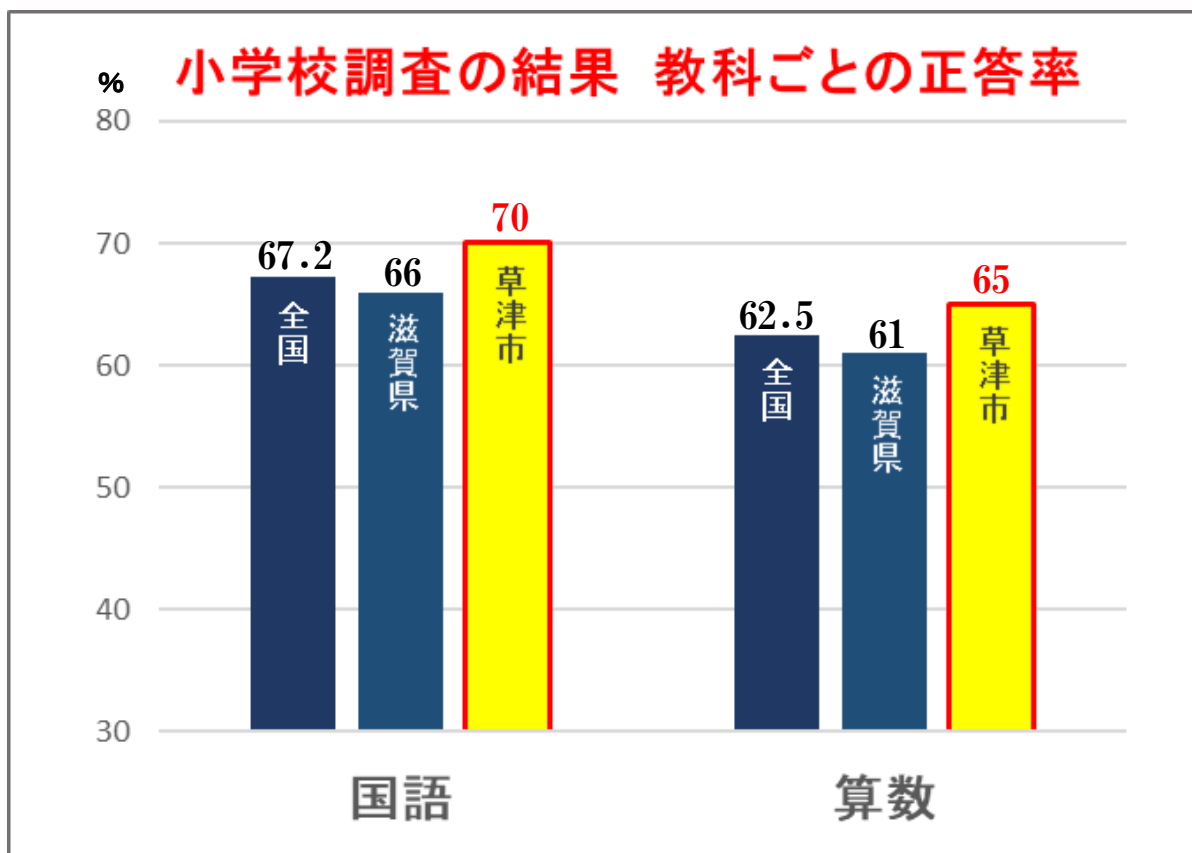
### ◎中学校

1時間目	2時間目	3時間目		
国語(50分)	数学(50分)	英語「聞くこと」・ 「読むこと」・「書く こと」(50分)	生徒質問紙 (20～45分程度)	英語「話すこと」 ※

※英語「話すこと」に関する調査は、当日実施校（4月18日実施）と期間内実施校（4月19日～5月26日）に分けて実施。

## 教科に関する調査結果

教科に関する調査では、小中学校の正答率が全ての教科で全国平均と滋賀県平均を上回る結果となりました。



## 生活習慣や学習環境に関する調査結果

### ◆児童生徒に対する調査

《小学生》 ※数字は、質問に対して「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と答えた児童の割合を表示しています。

小学生を対象にした「児童質問紙調査」59項目の結果を掲載します。 (単位：%)

※質問項目欄について… (新):新設された質問項目

	質問項目	草津市	全国
1	朝食を毎日食べている。	96.1	93.9
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	83.5	81.0
3	毎日、同じくらいの時刻に起きている。	92.1	90.5
4	自分にはよいところがあると思う。	82.8	83.5
5	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	89.5	89.8
6	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。(新)	91.6	93.0
7	将来の夢や目標を持っている。	79.9	81.5
8	人が困っているときは、進んで助けている。	91.6	91.6
9	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	98.3	96.9
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。	70.0	68.5
11	人の役に立つ人間になりたいと思う。	96.2	95.9
12	学校に行くのは楽しいと思う。	85.0	85.3
13	自分と違う意見について考えるのは楽しい。	76.8	76.5
14	友達関係に満足している。(新)	90.7	90.3
15	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはあるか。(新)	90.8	91.0
16	家で自分で計画を立てて勉強をしている。(学校の授業の予習や復習を含む。)	72.6	70.7
17	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり2時間以上、勉強をする。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。)	29.0	25.6
18	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり2時間以上、勉強をする。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。)	25.5	24.7
19	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっている。(インターネットを通じて教わっている場合も含む。)(新)	54.9	45.4
20	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上、読書をする。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)	20.8	18.5
21	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館(それぞれ電子図書館を含む)に週1回程度以上行く。(新)	10.8	13.4
22	家には、およそ101冊以上の本がある。	37.6	33.2

23	新聞を週に1～3回程度以上読んでいる。	11.2	12.6
24	読書は好き。	74.0	71.8
25	今住んでいる地域の行事に参加している。	66.4	57.8
26	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。(新)	76.4	76.8
27	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う。(新)	75.3	72.5
28	日本やあなたの住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う。(新)	76.3	78.1
29	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用した。	84.5	86.3
30	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う。(新)	95.6	95.1
31	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っている。(遊びなどの目的に使う時間は除く。)(新)	15.0	17.9
32	(5年生までに受けた授業について)授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。	63.8	63.7
33	(5年生までに受けた授業について)授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。	79.6	78.8
34	(5年生までに受けた授業について)授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。	75.4	74.4
35	(5年生までに受けた授業について)授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。	84.5	82.9
36	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	82.3	81.8
37	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	78.4	77.4
38	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている。(新)	82.9	81.9
39	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	78.8	74.8
40	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。	77.6	77.2
41	学級活動における学級での話し合いを生かし、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。	75.1	75.7
42	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。	83.9	83.6
43	国語の勉強は好きだ	59.8	61.5
44	国語の勉強は大切だ。	95.3	94.2

45	国語の授業の内容はよく分かる。	86.2	85.7
46	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。	94.8	92.8
47	国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいる。(新)	86.5	83.9
48	国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめている。(新)	75.7	76.8
49	国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(新)	69.4	71.1
50	国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目している。	84.0	82.3
51	算数の勉強は好きだ。	59.9	61.4
52	算数の勉強は大切だ。	95.1	94.2
53	算数の授業の内容はよく分かる。	83.5	81.2
54	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。	94.6	93.3
55	英語の勉強は好きだ。(新)	67.9	69.3
56	英語の勉強は大切だ。(新)	92.8	91.3
57	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う。(新)	51.0	52.5
58	これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会があった。(地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、PC・タブレットなどのICT機器を利用して他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど。)(新)	54.0	46.5
59	家庭学習の課題(宿題)として、PC・タブレットなどのICT機器を週1回程度以上使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしている。(新)	35.9	29.5

《中学生》 ※数字は、質問に対して「当てはまる」「どちらかという当てはまる」と答えた生徒の割合を表示しています。

中学生を対象にした「生徒質問紙調査」72項目の結果を掲載します。(単位:%)

※質問項目欄について・・・(新):新設された質問項目

	質問項目	草津市	全国
1	朝食を毎日食べている。	90.7	91.2
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ている。	77.4	78.0
3	毎日、同じくらいの時刻に起きている。	90.2	91.3
4	自分にはよいところがあると思う。	74.7	80.0
5	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。	86.2	87.3
6	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思う。(新)	85.4	88.9
7	将来の夢や目標を持っている。	64.0	66.3
8	人が困っているときは、進んで助けている。	88.2	88.1

9	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。	96.9	95.5
10	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。	66.4	66.4
11	人の役に立つ人間になりたいと思う。	95.5	94.6
12	学校に行くのは楽しいと思う。	80.9	81.8
13	自分と違う意見について考えるのは楽しい。	79.0	77.6
14	友達関係に満足している。(新)	87.7	88.7
15	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはあるか。(新)	87.2	86.8
16	家で自分で計画を立てて勉強をしている。(学校の授業の予習や復習を含む。)	60.8	55.0
17	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり2時間以上、勉強をする。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。)	44.9	33.7
18	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たり2時間以上、勉強をする。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む。)	42.7	40.0
19	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっている。(インターネットを通じて教わっている場合も含む。)(新)	72.8	60.0
20	学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり1時間以上、読書をする。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く。)	13.0	13.8
21	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館(それぞれ電子図書館を含む)に週1回程度以上行く。(新)	15.1	18.5
22	家には、およそ101冊以上の本がある。	33.8	32.7
23	新聞を週に1～3回程度以上読んでいます。	9.0	8.1
24	読書は好き。	57.4	66.0
25	学校の部活動に参加している。(新)	76.3	82.6
26	普段(月曜日から金曜日)、平均して3日以上学校の部活動に参加している。(新)	68.8	72.6
27	学校の部活動で、普段(月曜日から金曜日)活動を行った日は、平均してどれくらいかの時間、1時間以上活動している。(新)	72.1	77.2
28	学校の部活動で、土曜日や日曜日など学校が休みの日に活動を行った日は、平均して2時間以上活動している。(新)	67.6	67.2
29	今住んでいる地域の行事に参加している。	37.5	38.0
30	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う。(新)	67.8	63.9
31	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思う。(新)	69.7	66.8
32	日本やあなたの住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思う。(新)	63.1	63.2
33	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を週1回以上使用した。	91.6	87.5

34	学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思う。(新)	92.7	93.3
35	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たり1時間以上、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っている。(遊びなどの目的に使う時間は除く。)(新)	16.6	13.4
36	(1、2年生のときに受けた授業について) 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた。	61.7	62.1
37	(1、2年生のときに受けた授業について) 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた。	76.5	79.2
38	(1、2年生のときに受けた授業について) 授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた。	69.3	69.1
39	(1、2年生のときに受けた授業について) 授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていた。	72.6	74.9
40	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。	77.9	79.7
41	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。	73.2	69.2
42	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしている。(新)	69.7	69.9
43	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。	71.7	72.6
44	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている。	75.3	77.9
45	学級活動における学級での話し合いを生かし、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる。	68.7	71.6
46	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。	86.1	86.3
47	国語の勉強は好きだ	60.2	61.4
48	国語の勉強は大切だ。	92.3	92.4
49	国語の授業の内容はよく分かる。	79.5	80.0
50	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。	90.7	88.7
51	行書の基礎的な書き方(「点画の連続」や「点画の省略」、「筆順の変化」など)を理解して書いている。(新)	66.6	67.2
52	国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫している。(新)	66.5	65.9
53	国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いている。(新)	63.1	63.9
54	国語の授業で、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえている。(新)	75.6	77.2

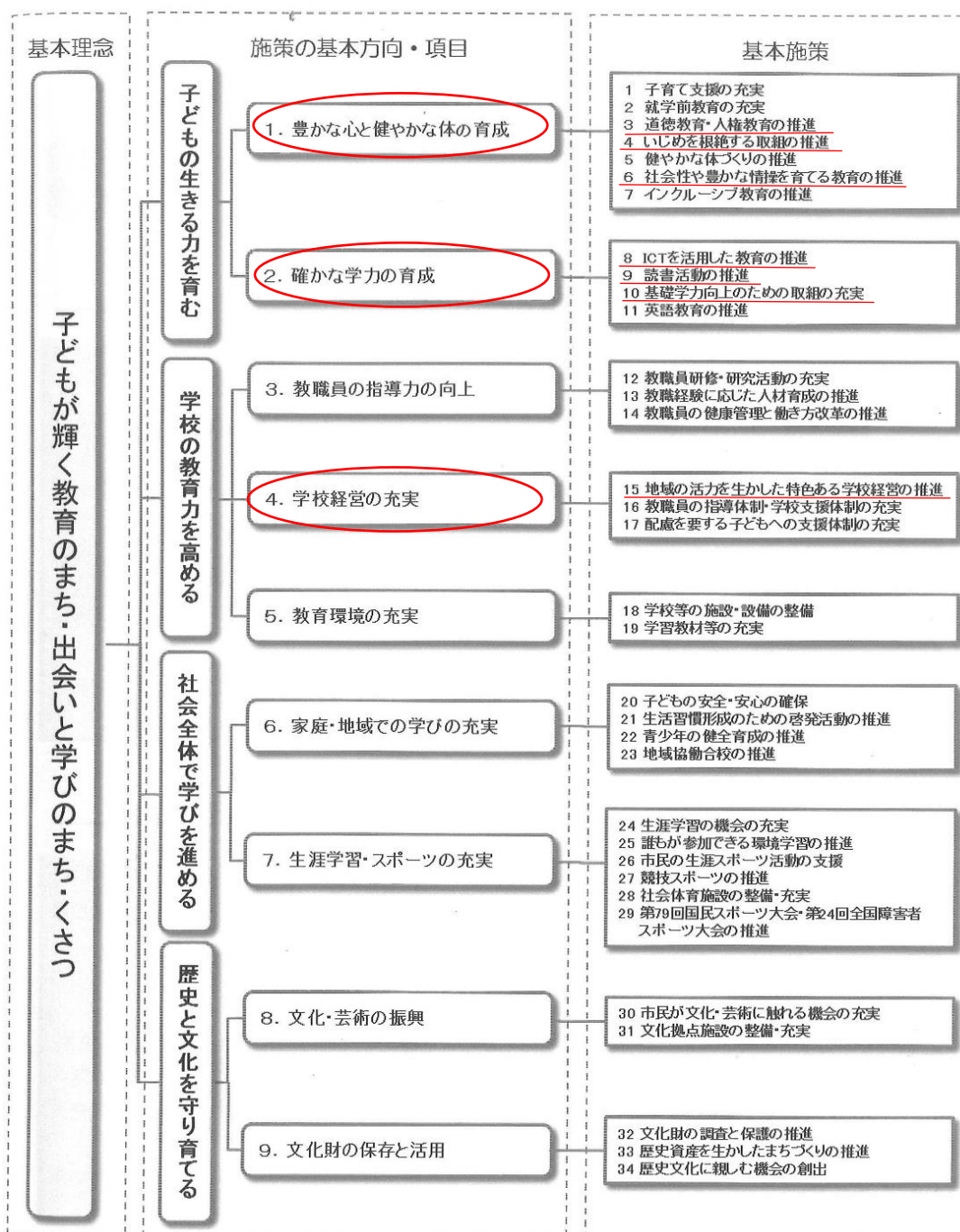
55	数学の勉強は好きだ。	57.7	56.7
56	数学の勉強は大切だ。	87.1	85.0
57	数学の授業の内容はよく分かる。	75.0	73.3
58	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。	79.6	75.8
59	英語の勉強は好きだ。(新)	56.1	51.9
60	英語の勉強は大切だ。(新)	89.1	88.0
61	英語の授業の内容はよく分かる。(新)	65.5	63.9
62	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ。(新)	89.8	87.5
63	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う。 (新)	38.3	36.7
64	これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にあった。(地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、オンラインで他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど。)(新)	35.7	30.0
65	家庭学習の課題(宿題)として、PC・タブレットなどのICT機器を週1回程度以上使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしている。 (新)	24.5	22.9
66	(1、2年生のときに受けた授業について)英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う。(新)	75.1	78.2
67	(1、2年生のときに受けた授業について)英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う。(新)	77.0	80.3
68	(1、2年生のときに受けた授業について)原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思う。(新)	58.7	63.8
69	(1、2年生のときに受けた授業について)スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思う。(新)	84.8	78.7
70	(1、2年生のときに受けた授業について)自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思う。(新)	82.2	82.8
71	(1、2年生のときに受けた授業について)聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思う。(新)	78.7	80.7
72	(1、2年生のときに受けた授業について)聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思う。(新)	79.2	79.3



## 調査結果の分析と今後の手立て

1. 「国語、算数・数学、英語」の問題をそれぞれ分析し、本市の成果と課題を考察しました。
2. 子どもの日頃の生活や学習習慣に関する質問項目を8カテゴリーに分けて、成果と課題および考察を一覧にしました。
3. 草津市教育振興基本計画（第3期）のうち、施策達成状況が読み取れるものを一覧にしました。  
※草津市教育振興基本計画（第3期）の施策体系については、図1を参照ください。
4. 調査結果をもとに、今後の手立てを公表します。

【図1】草津市教育振興基本計画(第3期)施策体系図



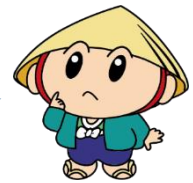
# 1. 「国語、算数・数学、理科」の問題分析

## 【小学校 国語】

### (1) 出題の趣旨

大問数（3問）と小問数（14問）は昨年度と同様でした。「情報と情報との関係を捉えたり、グラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることができるか」、「目的に応じて必要な情報を見付けたり、情報を関係付けて整理したりして、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるか」「話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができるか」に関して問う問題が出題されました。

目的に応じて、複数の資料から必要な情報を取り出して整理し、自分の考えをまとめたり、相手に伝わるように工夫して書き表したりする力を問う問題が多く出されたよ。



### (2) 結果

#### ①成果

・「思考力・判断力・表現力等」を評価する問題の正答率は、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3つの項目すべてにおいて、全国平均を上回りました。特に、「書くこと」では、全国平均を6.3ポイント上回る結果でした。

#### ②課題

- ・目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題で、平均正答率が全国平均を下回りました。誤答の中で多かったものとしては、話し手の意図や考えを捉えて自分の考えをまとめることができていないものが挙げられます。
- ・日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる問題で、無回答率が全国平均を上回りました。

## 【実際の問題の抜粋】

【資料2】運動について書かれたパンフレットのページ

**運動で健康な体をつくらう！**

運動には、筋力や持久力などを高めるほかに、病気への抵抗力<sup>たいしよく</sup>を高める効果もあります。また、運動によって気持ちがリフレッシュするなどの効果もあります。

どんな運動をするといいの？

運動をする際、自分に合った運動を選んで行うことが大切です。主な運動の種類には、下のように、軽いジョギングなどの持久力を高める運動や、腹筋運動などの筋力を高める運動があります。そのほかにも、体のやわらかさを高める運動や、たくみな動きを高める運動などがあります。

このような運動は日常生活の中にもあります。例えば、休み時間の外遊び、犬の散歩、階段の上り下り、荷物運びなどです。日常生活の中で体を動かす機会をつくると効果的です。

主に持久力を高める運動の例

主に筋力を高める運動の例

軽いジョギング      縄とび(続けてとぶ)

腹筋運動      腕立て伏せ

【資料1】運動について書かれた本の一部

運動は、体の向上につながります。そのため、子供からお年寄りまで適度に運動をすることが大切だと言われています。私たちが日々行っている運動には、いくつかの種類があります。例えば、体になくさんの酸素を取り入れながら続けることで持久力を高める運動や、瞬間的に大きな力を出すことで筋力の力を高める運動などです。

生活の中に自分が好きな運動を取り入れれば、続けて取り組むことができます。その際は、目的に応じて運動を選ぶとともに、健康状態や体力に合わせて自分のペースで行うことが大切です。

「相田さんの考え」

ぼくは、運動の面から考えてみたい。運動をすると健康にいいことがあるのかな。

相田さんの学級では、健康に過ごすために、複数の文章を選んで読み、自分ができそうなことを考えてまとめることになりました。次は、「相田さんの考え」と、相田さんが知りたい運動を調べるために選んだ「資料1」、「資料2」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

相田さん

## 【中学校 国語】

### (1) 出題の趣旨

4つの大問と15の小問が出題されました。その中で、文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け自分の考えを広げたり深めたりする力、目的に沿って自分の考えをまとめたりする力が求められています。また、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかを問う問題が出題されました。

学校図書館等の様々な資料から情報を得て活用するなど、国語科で育成を目指す資質・能力をより高める重要な活動の一つである「読書」が題材として扱われました。

平成30年度以来5年ぶりに古典を用いた問題が出題され、現代語で書かれた文章と比較し根拠を明確にして書く力が試されたよ。



### (2) 結果

#### ①成果

- 問題形式ごとの正答率では、選択式・短答式の問題は11問中10問が全国平均を上回りました。
- 「知識及び技能」を評価する問題では、7問すべての正答率が全国平均を上回り、特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」においては、1.6ポイント上回る結果でした。

#### ②課題

- 記述式の問題では、4問中3問の正答率が全国平均を0.4ポイント～1.8ポイント下回り、4問とも無回答率が全国平均を0.5ポイント～2.3ポイント上回る結果となり、根拠を明確にして書く力の育成が課題であると考えられます。

### 【実際の問題の抜粋】

③ 山田さんは、読書の期間に、言葉に関して興味をもったことをメモしています。次に、山田さんが書いている「下書きの一例」です。これを読んで、あとの問いに答えなさい。

「判じ絵」について 山田 光一

1. はじめに  
学校図書館の本で、「判じ絵」というものがあることを知った。「判じ絵」には具体的にどのようなものがあるのか、また、「判じ絵」がいつ生まれ、どのように現代に伝わったのかに興味をもた、詳しく調べることにした。

2. 調査方法  
学校図書館、地域の図書館、インターネットで情報を集めた。

3. 調査結果

■「判じ絵」とは何か  
「判じ絵」とは、描かれている絵や記号などが列を意味しているかを解読して楽しむものである。(ア) ただし、【図1】のように、描かれているもの【図1】ザルと意味しているものが異なるために「判じ絵」に「判じ」ということ、つまり、知っていることをもとに「上」で考えている必要がある。(イ) 調べてみれば、なぜかやアイズのようなものである。(ウ) また、「判じ絵」の起源を調べたところ、平安時代後期から行われていた「ことば遊び」だと考えられていることが分かった。(エ) そして、江戸時代に庶民の間に広まる中で様々なものが生まれ、浮世絵ともつながりの深い文化として定着していったという。(オ) さらに明治に時代が移っても、人々の娯楽として親しまれ、現代でも雑誌の挿絵やテレビのクイズ番組などで見ることができている。

■「判じ絵」の解読の面白さ  
「判じ絵」の解読の仕方について、具体的に例を挙げて説明する。

【図2】は、鈴の絵に目が描かれている。描かれているものを読み合わせて解読すると、鳥の「スズメ」という意味になる。

【図3】は、

【図3】

【図3】

「山田さんは「1. はじめ」の……」を「もったため」に……として……、その意図として最も適切なものを次の1から4までの中から一つ選びなさい。


1 「判じ絵」を知ったきっかけを明確にしようとした。  
2 「判じ絵」が現代に伝わった経緯を明確にしようとした。  
3 「判じ絵」に興味をもったきっかけを明確にしようとした。  
4 「判じ絵」を調べることにした理由を明確にしようとした。


二 読者のひらがなを漢字に直し、補筆で正しいに書きなさい。

三 山田さんは、「判じ絵」とは何ぞと見出しを付けた文章のまじりに二つに分けて、後半のまじりは分けた内容とあらう出しを行ってこととした。分けを無理にして最も適切なものを(ア)から(オ)までの甲から一つ選びなさい。

四 山田さんは、「判じ絵」の解読の面白さを「(ア)」として一つ具体的に示して、解読の仕方を説明しようとしている。あとの文章の(イ)から(ウ)までを参考に、次の(エ)の「判じ絵」の解読の仕方を書いてください。ただし、(ア)～(ウ)は、「判じ絵」の解読の仕方に関する情報であり、必ずしも正しいとは限りません。また、(ア)～(ウ)は、読み直して文章を直し、(イ)～(ウ)は、補筆で正しいに書きなさい。

(例題)

A  蝶 (ア) ちょうちん  
【図3】 蝶

B  鳥 (イ) ちょうちん  
【図3】 ナス

※ 次のページの枠に、下書きに任せてもかまいません。解答は必ず解答用紙に書かれます。



## 【小学校 算数】

### (1) 出題の趣旨

4つの大問と12の小問が出題されました。その中で、日常生活の場面において、事象を数的に捉え、数学的に表現・処理することや、目的に応じてデータの特徴や傾向を読み取ったり捉えたりすることができるかを問う問題が出題されました。

ファイルを教室の棚に並べる場面について、計算の仕方を考え、表現し判断する力が問われました。

1週間に運動をした日数と人数や、運動が好きかどうかについて調べた結果を表やグラフに表し、そこから、その特徴を見だし、考察する力が問われました。



複数のグラフを読み、見だした違いを言葉と数を用いて記述する問題が出たよ。

### (2) 結果

#### ①成果

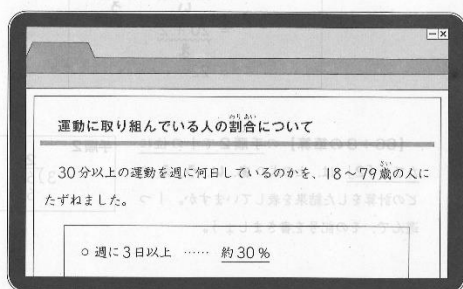
- 算数科の平均正答率は全国平均を2.5ポイント上回り、出題された4つの領域すべてで全国平均を上回る結果でした。特に「データの活用」については3.8ポイント、「図形」については2.8ポイント上回る結果でした。
- 記述式の問題では、2.7ポイント全国平均を上回る結果でした。また、無回答率も全校平均より少ない結果でした。

#### ②課題

- 1の位が0の2つの2位数の乗法の計算について、正答率が全国平均を下回りました。計算方法を正しく理解することや、計算技能の習熟を図る必要があります。

### 【実際の問題の抜粋】

あいかさんは、毎日を健康に過ごすためには、運動、食事、休養・すいみんが必要であることを学習しました。そこで、インターネットで運動について調べると、下のような記事を見つけました。



あいか 1日に30分以上の運動を、週に3日以上している人の割合は約30%なのですね。

(1) 30%について考えます。割合が30%になるものを、下のアからオまでの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア 100人をもとにした0.3人の割合
- イ 100人をもとにした3人の割合
- ウ 100人をもとにした30人の割合
- エ 10人をもとにした3人の割合
- オ 30人をもとにした1人の割合

(2) あいかさんたちは、5年生と6年生が30分以上の運動を週に何日しているのかを調べてみたいと思い、委員会の活動として運動カードを作りました。



5年生と6年生に運動カードを配って、運動した時間を記録してもらいましょう。

下の運動カードは、あいかさんが5月9日から5月15日までの1週間に運動した時間を記録したものです。

日	運動した時間(分)						運動した時間の合計(分)
	体をほぐす運動	遊具を使った運動	走る運動	縄とび	ボールを使った運動	その他	
5/9(月)	10				25		35
5/10(火)	5			10	15	10	40
5/11(水)	10			5		15	30
5/12(木)	5			10			15
5/13(金)	5					10	15
5/14(土)			20		35		55
5/15(日)		10			35		45

## 【中学校 数学】

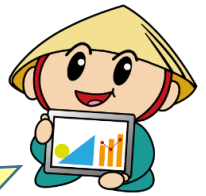
### (1) 出題の趣旨

問題の前半では、数と整式の乗法の計算をする問題や空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかを問う問題など、基本的な知識・技能に関する問題が出題されました。

累積度数の意味を理解しているかをみる問題や複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかをみる問題など、学習指導要領の改訂で移行された内容や新たに指導する内容に関する問題が出題されました。

イチョウの黄葉日について、複数のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題や2つの直線が平行になることを三角形の合同をもとに証明した上で、条件を変えた場合に2つの直線が平行にならない理由を、証明を振り返ることで明らかにする問題など、事象を数学的に解釈し、数学的に説明したり、表現したりする力が問われました。

論理的思考の過程をプログラミング学習とつなげて考える問題や、必要な情報を適切に読み取って考える問題が出題されたよ。



### (2) 結果

#### ①成果

- ・数学科の平均正答率は、全国を4.0ポイント上回り、4領域すべてについても全国平均を上回る結果でした。特に「データの活用」については5.4ポイント、「数と式」については5.2ポイント全国平均を上回る結果でした。
- ・短答式の問題の正答率が、全国平均を4.0ポイント上回る結果でした。

#### ②課題

- ・全体的に無回答率が全国平均よりやや下回っていました。問題の解決方法や、事柄が成り立つ理由を説明する記述式の解答の無回答率が16%~24%と高く、理解や定着の個人差が大きい傾向が見られました。
- ・各問題については、「関数」の知識・技能をみる問題で正答率が全国平均よりも0.9ポイント下回っており、基礎的・基本的な事項についての定着が課題であると考えられます。また、「関数」の思考・判断・表現をみる記述式の問題で、無回答率が全国平均を2.9ポイント上回っており、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明できる力の育成が課題であると考えられます。

### 【実際の問題の抜粋】

8 大悟さんが住む地域にある新緑大学は、大学対抗駅伝大会に出場します。この駅伝大会では、コースを7区間に分け、1区から7区までをリレー形式で走ります。大悟さんは、新緑大学の6区の選手の応援に行きました。6区の道のりは12000mあり、6区のスタート地点では、晴天大学が先にスタートし、新緑大学がその100秒後にスタートしました。

大悟さんは、インターネットで6区の速報を見て、新緑大学が晴天大学に追いつきそうだと考え、その地点を予想することにしました。



そこで、大悟さんは、晴天大学と新緑大学の6区の各地点の記録を、晴天大学の6区の選手がスタートしたときを0秒として、下のような表にまとめました。

大悟さんがまとめた表

地点	スタート地点からの道のり	晴天大学	新緑大学
スタート地点	0 m	0 秒	100 秒
図書館前	1200 m	238 秒	316 秒
郵便局前	2800 m	567 秒	611 秒
駅前	4000 m	798 秒	824 秒

6区の速報(地点:駅前)		
順位	記録	大学
○	○分○秒	晴天大学
○	○分○秒	新緑大学



## 【中学校 英語】

### (1) 出題の趣旨

10の大問と17の小問が出題されました。授業において、1人1台端末を効果的に活用し、英語でやり取りしている場面を設定した問題が複数出題されました。「聞くこと」においては、話された英文にあう絵や文を選択する問題、説明や意見を聞いて、概要を捉える問題が出題されました。「読むこと」においては、英文を読んで適するグラフやポスターを選択する問題、意見文を読んで概要を捉えたり、その内容について自分の意見を書いたりする問題が出題されました。「書くこと」においては、正確な英文を書くことができるかをみる短答式問題が出題されました。また、学校紹介をまとまりのある英文で書く問題が出題されました。

生徒が文書作成ソフトを使ってメール文を作るという内容が問題に出たよ。



### (2) 結果

#### ①成果

- ・すべての問題において、正答率が全国平均を上回る結果でした。
- ・「聞くこと」については、平均正答率が全国平均を4ポイント上回る結果でした。
- ・「読むこと」については、平均正答率が全国平均を5.5ポイント上回る結果でした。
- ・「書くこと」については、平均正答率が全国平均を6.8ポイント上回る結果でした。
- ・短答式の問題については、平均正答率が全国平均を9.1ポイント上回る結果でした。
- ・平成31年度の調査では、全体の平均正答率において全国平均との差が3ポイント上回る結果でしたが、今回の調査では、5.4ポイント上回る結果でした。

#### ②課題

- ・日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかを尋ねる設問においては、正答率は全国平均よりも2.4ポイント上回っていますが、正答率は9.8%でした。また、同じ設問の無解答率においては、全国平均よりも1.7ポイント低いとはいえ、19.7%でした。個人の理解や定着に差があるとともに、既習の学習を生かして文を組み立てることに課題があります。

### 【実際の問題の抜粋】

**10** あなたの学校では、学校の英語版ウェブサイトを開いています。あなたは、そのサイトに学校紹介文を掲載することになりました。学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それについて説明するまとまりのある文章を25語以上の英語で書きなさい。

※ 短縮形（I'm や don't など）は1語と数え、符号（, や ? など）は語数に含めません。

(例) No, I'm not. 【3語】

(2) 次の英文は、ある生徒が文書作成ソフトを使って、スピーチコンテスト (speech contest) についてスミス先生 (Mr. Smith) 宛てに書いた【メール文の下書きの一部】です。送信する前に友達に相談したところ、友達から【コメント】をもらいました。【コメント】にしたがって、下線部を書き直さない。

【メール文の下書きの一部】

Dear Mr. Smith,

How are you?

We have a speech contest next Friday.  
The speech contest starts at 10:00.  
You have to come to the speech contest.

【コメント】



この英文は、依頼する表現に修正したほうがよいと思う。



## 2. 子どもたちの日頃の生活や学習習慣に関する質問の結果

		調査結果のうち特徴的なもの	調査結果から考えられること
1	生活習慣	成果 「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した小学生は、いずれの項目でも全国平均を上回った。	生活習慣の形成には家庭の役割が大きい。多くの家庭において、子どものよりよい生活習慣形成のため、「家庭のルールづくり」がしっかりされていることがわかる。
	課題	「朝食を毎日食べている」「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」「毎日、同じくらいの時刻に起きている」と回答した中学生は、いずれの項目でも全国平均を下回った。	中学生では、特に「毎日、同じくらいの時刻に寝ている」の値が低い。中学生になると帰宅後に家庭学習や習い事などの時間が増えることが影響している。睡眠時間を確保することが脳の発達や体の成長にも不可欠なため、帰宅後のスケジュールをしっかりと立てることが大切である。
2	規範意識	成果 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」と回答した小学生は98.3%、中学生は96.9%といずれも全国平均を上回る高い数値となった。 本調査より新設された質問である「友達関係に満足している」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることがある」に肯定的に回答した小学生は90%、中学生が87%と高かった。	各校において策定する学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめをなくす取組の充実を図ってきたことが、子どもたちのいじめを許さないという意識の醸成に繋がっている。 これからの教育は、ウェルビーイングが実現される社会の担い手を創っていくという視点が重視されていく。子どもたちが幸福や生きがいを感じられる学校づくりが大切である。一人ひとりの友達関係や学校生活の充実のために、きめ細やかな支援をしていきたい。
	自己有用感等	課題 「自分にはよいところがあると思う」と回答した小学生と中学生の割合がいずれも全国平均を下回った。特に中学生は、全国平均より5.3ポイント低い結果となった。	主体的な学びや他者との協働を行っていると回答した子どもたちの方が自己肯定感が高いという文部科学省の報告がある。学校生活の中で、他者との協働で自分の役割を果たすとともに、教師がその姿を認めることを通して、成功体験を感じさせる場面を大切にいく。
3	学習習慣	成果 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」と回答した小学生は全国平均を1.9ポイント上回る72.6%、中学生は5.8ポイント上回る60.8%だった。 「学校の授業時間以外に、普段1日当たり2時間以上勉強する」と回答した小学生は全国平均を0.8ポイント上回る25.5%、中学生は2.7ポイント上回る42.7%だった。	コロナ禍において、臨時休校や特別日課等で家庭での学習時間が増えたことに伴い、家庭での学習を進めたことなどが、家庭学習習慣の定着につながっている。 学習塾や家庭教師に教わっているという値が、小中学校共に全国平均を大きく上回っていることが、学校の授業時間以外の勉強時間が多いことに関連している。
	課題	「学校の授業以外に普段1日当たり1時間以上読書をする」と回答した小学生は全国平均を2.3ポイント上回り、読書が好きと回答した小学生は全国平均を2.2ポイント上回った。しかし、中学生ではいずれも全国平均を下回った。特に「読書が好き」と回答した中学生は、全国平均を8.6ポイント下回る結果となった。	中学生における読書離れが顕著に表れた結果となった。 「ゲーム」や「SNS」「動画サイト」等、子どもたちの周りには魅力的な物が溢れており、塾や習い事等にかかる時間が多い子どもたちもいる。読書の魅力を感じたり、本に触れたりする機会を学校、地域、家庭それぞれの場でつくっていく必要がある。
4	社会活動	成果 「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答した小中学生の割合は、全国平均を上回っている。特に小学生は、全国平均を8.6ポイントと大きく上回っている。	それぞれの地域には、子どもたちが関わる地域行事が多く存在する。地域行事への参加を通して、子どもたちは地域の人々の思いや願いを聞き、地域文化を引き継いでいく担い手となっている。
	課題	「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と回答した小学生の割合は、全国平均を0.4ポイント下回る76.4%だった。	これまでの調査では、「何をすべきかを考えることがある」だったが、本調査より「何かしてみたいと思う」に変更された。スクールESDくさつプロジェクトにおいて、地域課題解決のために他者と協働し、行動するという経験を通して、子どもたちに地域の一員としての意識と行動力を育成していく。
5	ICT機器の活用	成果 本調査より新設された質問である「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」に肯定的な回答をした小学生が95.6%、中学生が92.7%と高い値となった。	本市が他に先駆けて、ICT機器の導入と環境整備に取り組み、全教室で電子黒板やタブレット端末等のICT関連機器を活用した授業の研究と実践を進めてきたことが、子どもたちのICT機器は勉強に役立つという意識につながっている。
	課題	「これまでに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用したか」の質問には、「ほぼ毎日」「週3回以上」「週1回以上」等の選択肢があるが、使用の頻度については学校間の格差が大きくなっている。	教師の指導スキルの差により学校間の格差が顕在化している。引き続き、スキルアップアドバイザー等の学校訪問による個別指導と各校の教育情報リーダーを核とした教員研修を通して、全教員のタブレット端末を活用した授業力向上を図る。

		調査結果のうち特徴的なもの	調査結果から考えられること
6	学習活動	<p>成果</p> <p>「授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」や、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている」と回答した小中学生の割合が全国平均を上回った。</p> <p>課題</p> <p>「授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」と回答した小学生の割合が昨年度より4.6ポイント低下した。</p> <p>「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」と回答した中学生の割合が、全国平均を2.7ポイント下回ったのははじめ中学校では、学習活動に関わる7つの質問項目のうち、5つの項目で全国平均を下回った。</p>	<p>日々の授業において、「めあて・課題」を設定し、学習のゴールを持ち、解決への見通しや目的意識を持ったり、「振り返り」の時間を確保し、学んだことを子どもが自分の言葉で自覚できるようにしたりするなどの授業スタイルの定着が、成果につながっている。</p> <p>小学校では、文章を推敲したり練り直したりして自分の考えをしっかりと持ち、その考えが伝わるようにICT機器を活用して発表資料を作成し伝える学習活動を大切にする。また、特に中学校では、講義型の授業からの改善を行う。市として以前から重要視してきた授業改善の3視点（課題解決型の授業、話し合い活動の充実、発表時のスキルの向上）の充実に図る。さらに、話し合い活動や発表時にICT機器を有効に活用することを通して、学びの充実に図る。</p>
	総合・学級活動・道徳	<p>成果</p> <p>「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した小学生の割合は、全国平均を4.0ポイント上回る78.8%で過去最高値となった。</p> <p>「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と回答した中学生の割合は、過去5年間80%を超える高い値を示している。</p> <p>課題</p> <p>「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」と回答した中学生の割合は、3年連続全国平均を下回った。</p> <p>「あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」と回答した中学生の割合は、全国平均を2.6ポイント下回っている。小学生の市の平均は全国平均値を上回っているものの、学校間に最大40.1ポイントも開きがあり格差が問題である。</p>	<p>令和6年度からの「スクールESDくさつプロジェクト」の全校実施に向けて、各校で総合的な学習の時間のカリキュラム計画である「ESDカレンダー」を作成し、総合的な学習の時間の内容の見直しを行ったことで、実践が充実したことが要因として考えられる。特に小学校では、これまでの地域協働合校事業をベースに地域と連携した多様な実践が進められている。</p> <p>道徳が教科化されて以来、本市が進めてきた「考え議論する道徳」が定着している。また道徳の研修会等の取組を通して教員の意識が向上していることが、子どもたちの意識の向上につながっている。</p> <p>中学校における総合的な学習の時間の充実が課題である。スクールESDくさつプロジェクトでめざす地域課題解決型の実践はこれまで多く実践されてはこなかった。各中学校ではプログラム導入に向けて試行錯誤が続いている。ESDの実践をいち早く取り入れた中学校では、その成果が数値に表れている。</p> <p>主体的、対話的で、深い学びを求めるとき、話し合う活動は核となる。課題を見出し、解決のための合意形成を図ったり、意思決定をしたりする中で、他者の意見に触れ自分の考えを広げたり、多面的多角的な見方ができるようになったりする。このような授業への授業改善が進むよう引き続き教員の研修を充実させていく。</p>
8	教科指導	<p>成果</p> <p>「英語の勉強は好きだ」と回答した中学生は、全国平均より4.2%高い57.7%だった。英語に関する中学生への質問項目「英語の勉強は大切だ」「英語の授業の内容はよくわかる」「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」は、いずれも全国平均を上回った。</p> <p>課題</p> <p>小学生への質問項目「国語は好きだ」「算数は好きだ」「英語は好きだ」のいずれの項目も、全国平均を下回った。</p>	<p>草津市ステップアッププランに基づき、「生きて働く英語」の定着をめざして、子どもたちが、主体的に英語でコミュニケーションができる力を身に付け、自分の考えや意見、情報を積極的に発信できるよう、JTE（日本人英語指導助手）やALT（外国人英語指導助手）による支援、英語教育オンライン授業の実施、スコア型英語4技能検定等を、小学3年生から中学3年生まで系統的に取り組んだことが、成果につながっている。</p> <p>教科調査では、得点が上がリ学力が向上する一方で、教科が好きという気持ちは全国値より低かった。学びの楽しさを感じることは大切なため、子どもの「わかった」「できた」という喜びにつながる授業改善を進めていく。</p>



### 3. 草津市教育振興基本計画（第3期）の達成状況

#### 基本方向1 子どもの生きる力を育む

※肯定回答率とは、質問に対して「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」と回答した子どもの割合を示しており、%で表示しています。

※数値下の（ ）内は、施策計画当初の目標値を示しています。

##### 目標1：豊かな心と健やかな体の育成

※R2の数値は市独自で実施した調査結果です。（%）

施策評価の基準となる質問項目			R1	R2	R3	R4	R5
施策3	<b>道徳教育・人権教育の推進</b> 「道徳の授業では自分の考えを深めたり学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思う」の肯定回答率	小	83.5	78.3	83.3	79.1	83.9
		中	77.1	81.4	89.8	86.0	86.1
施策4	<b>いじめを根絶する取組の推進</b> 「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う」の肯定回答率	小	97.8	97.8	98.0	97.3	98.3
		中	94.8	95.0	96.9	96.5	96.9
施策6	<b>社会性や豊かな情操を育てる教育の推進</b> 「自分にはよいところがあると思う」の肯定回答率	小	80.3	78.5 (83.5)	79.6 (84.0)	81.1 (84.5)	82.8 (85.0)
		中	71.8	76.1 (73.5)	75.0 (74.0)	74.5 (74.5)	74.7 (75.0)

##### 目標2：確かな学力の育成

※R2の数値は市独自で実施した調査結果です。（%）

施策評価の基準となる質問項目			R1	R2	R3	R4	R5
施策8	<b>ICTを活用した教育の推進</b> 「前年度までに受けた授業でICT機器を週1回以上使用した」の肯定回答率	小	74.2	39.2	75.3	92.2	84.5
		中	71.0	60.4	77.8	90.6	91.6
施策9	<b>読書教育の推進</b> 「読書が好き」の肯定回答率	小	77.3	(77.5)	(77.7)	75.2 (77.9)	74.0 (81.1)
		中	62.4	(64.0)	(65.0)	61.2 (66.0)	57.4 (67.0)
施策10	<b>基礎学力向上のための取組の充実</b> 「授業では、課題の解決に向けて自分で考え、自分から取組んでいた」の肯定回答率	小	80.0	78.0 (79.5)	80.6 (80.0)	77.8 (80.5)	79.6 (81.0)
		中	73.8	71.1 (74.0)	82.2 (74.5)	76.6 (75.0)	76.5 (75.5)
施策10	<b>基礎学力向上のための取組の充実</b> 「家で自分で計画を立てて勉強をしている」の肯定回答率	小	70.5	73.2 (71.0)	78.5 (71.5)	75.4 (72.0)	72.6 (72.5)
		中	52.8	59.9 (53.5)	64.0 (54.0)	63.4 (54.5)	60.8 (55.0)

##### 目標4：学校経営の充実

※R2の数値は市独自で実施した調査結果です。（%）

施策評価の基準となる質問項目			R1	R2	R3	R4	R5
施策15	<b>地域の活力を生かした特色ある学校経営の推進</b> 「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う」の肯定回答率	小	70.0	75.1	73.9	72.9	78.8
		中	60.1	72.0	69.4	66.9	71.7

#### 4. 調査結果を受けての今後の手立て（教育施策）

##### ① 社会に開かれた教育課程を実現し、持続可能な社会の創り手を育成します。【施策 15】

➡令和6年度の「スクールESDくさつプロジェクト」の全小中学校での導入に向けて、各校がそれぞれの地域に根差した生活科や総合的な学習の時間の取組を充実させていきます。地域課題解決型の学習に取り組むことで、地域の人々と協働することや課題解決に向けて行動することの大切さを体験的に学びます。子どもたちが地域に出て学ぶことによって、「人づくり・つながりづくり・地域づくり」が進み、持続的な地域コミュニティの基盤がつくられます。本プロジェクトを通して、地域社会に根差したウェルビーイングの向上をめざします。

##### ② ICT を効果的に活用し、協働的な学びと個別最適な学びを充実します。【施策 8】

➡教員のICT活用指導力の底上げを図る研修等を通じてICT活用指導力における教員間格差を解消します。特に中学校では、協働的な学びを進める必要があるため、協働学習ソフトの有効な活用を推進します。

➡定期的な研修会に加えて、教職員の希望に応じて随時問い合わせを受け付けるオンライン相談やグループウェアの機能を活用した教員間の学び合いを促進することにより指導力の向上を図ります。

##### ③ 配慮を要する子ども支援の充実（相談体制の整備）を図ります。【施策 17】

➡子ども一人ひとりの不安や悩みを早期に発見するために、ICT機器を活用した心の健康観察を実施し、迅速かつ適切に対応します。教職員一人ひとりが校内組織で共通理解を図るとともに、学校全体でチームとしての支援体制を確立します。適切な支援につなげるために、担任や教育相談担当等の教職員をはじめ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教育支援センター「やまびこ」等の専門家・関係機関と連携し、相談体制の充実を図ります。

##### ④ 読書活動を充実させ、本が大好きな子どもを育てます。【施策 9】

➡本が大好きな子どもを育てるために、学校図書館の蔵書や設備の充実を図ります。公立図書館との連携を強化し、新設の移動図書館の活用や読書ポイント制を導入します。「図書館を使った調べる学習コンクール」や「くさつビブリオバトル」の開催等、子どもの読書機会の確保、読書活動の充実をめざします。

##### ⑤ 学校と家庭が連携し、子どもの生活習慣・学習習慣を育みます。【施策 21】

➡学習者用コンピュータを家庭に持ち帰ることで、家庭での学習環境を豊かにし、AI型デジタルドリルをはじめICTを活用した家庭学習の充実を図ります。

➡基本的な生活習慣の形成等に向けて、学校と家庭の連携を図ります。学校の情報発信を強化するため、「情報共有アプリ」の活用や「学校ホームページ」の充実を図ります。

##### ⑥ 各校の「学ぶ力向上策」の改善・見直しを支援します。【施策 12】

➡各校では、「授業づくり・学習集団づくり・学校づくり」の視点から「我が校の学ぶ力向上策」を立て、教育実践を進めています。市教委の学校担当指導主事は、学校を訪問し、全国学力・学習状況調査の分析結果を踏まえ、「我が校の学ぶ力向上策」を一緒に見直し、改善するための方策を考えます。

➡管理職のリーダーシップのもと、全教職員が、課題やビジョンを共有し、PDCAサイクルにより取組を着実に推進します。市教委主催の研修や指導主事の学校訪問や伴走支援により、学ぶ力向上推進の核となる学ぶ力向上推進リーダーを育成します。